



新発見の種をまく!

ハウス栽培の省力化と
高品質野菜栽培の農PO！新発売

遮熱農POフィルム

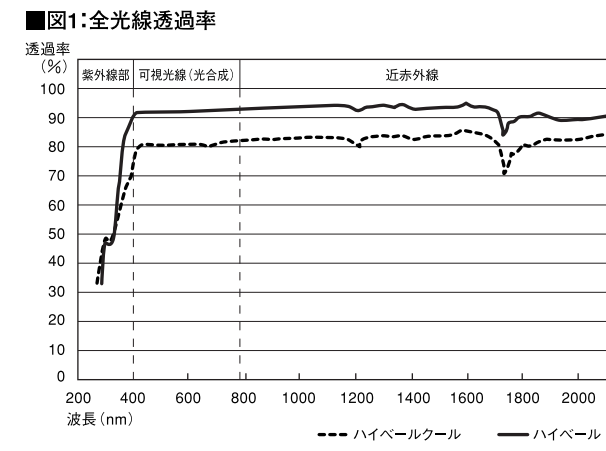
アキレス「ハイベールクール」

施設園芸ハウスは夏・冬一年を通して安定的に野菜や果物を生産出来る事を目的に、全国的に普及しています。アキレスではハウス内環境の改善を目的に、透明性など従来の農POの特性を維持し、近赤外線領域の透過を抑える事で、ハウス内温度を下げる遮熱効果を持った農業用POフィルムを開発しました。



ハイベールクールの特徴

- ①ハウス内気温が下がりますから体感温度が涼しく、夏場の作業も楽になります。
- ②特殊白色顔料の使用により、近赤外線の透過量を約10%抑え、光は良く通すが温度は下がるため、葉焼け防止や作物の育成に効果があります。(図1参照)
- ③ハウス内の温度上昇を抑えることで、灌水回数が減らせ、作業性が向上します。



商品紹介「ハイベールクール」

「アキレスハイベール」に遮熱効果をプラスした商品です。近赤外線領域の透過を抑える事で、春先から夏場にかけて利用する育苗ハウスなどのハウス内の温度を2〜3度下げる効果があり、作物や作業される農家の方々に適切な環境を作ります。(図2参照)

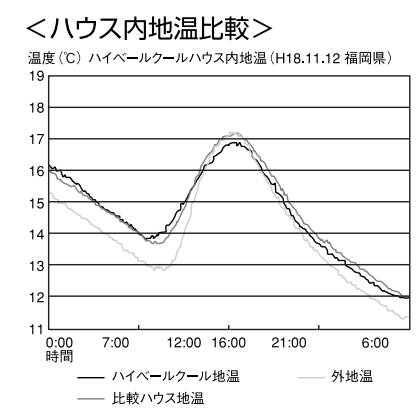
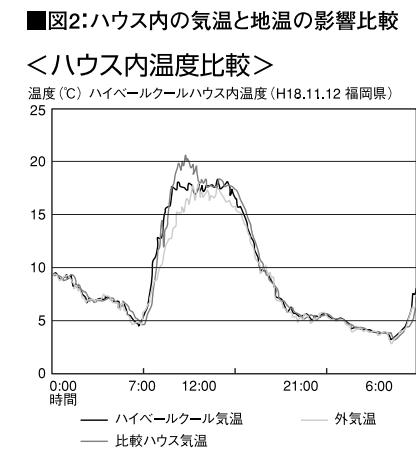
晴れた冬の無加温ハウスではハウス内温度が40℃を越え、しかも換気ができないため、より暑さを感じます。この温度が3〜4度下がるので、作物への良い影響が期待できます。

効果事例ご紹介

ネギ栽培、トルコキキョウに、夏の花焼けを防止するためハイベールクールを使用。通常の一般農POと50%遮光ネットとの併用に比べ資材費と手間が節約できます。寒冷紗と一般農POの併用の場合、熱がこもり、ハウス内温度が高く、灌水回数も多いため(1日2〜3回)、苗が徒長気味になり、病害発生の原因にもなります。

●使用上の注意点
ハウス内の温度が下がるので灌水の回数が増えます。ハウス内の状況を確認して灌水が多すぎないように管理してください。

前後で3〜4時間、5〜10日続くと、茎葉や生育に影響は出ませんが、落花、結実不良などの影響が出ます。換気のしにくい冬場のハウス内温度が40℃を越える事は生育に影響があると思われます。



今後の展開

施設園芸はハウスやトンネルで行われており、ハウス栽培だけでなくトンネル栽培でも夏期・冬期とも施設内が高温になることで、高温障害が起こっています。ハウス内の温度を下げるためには、換気や遮光資材が利用されていますが、十分でない事がわかりました。今回、遮熱農POを提案して、日中のハウス内温度を下げる必要性があり、ハウスや早い時間からハウス内に入れて収穫できるなどの作業性の効果も聞く事ができました。栽培地域や使用期間、作物などで詳

価は変わるとは思いますが、今後いろいろな地域・作物での使用機会を増やしたいと思います。北海道での夏取のキエウリ、ほうれん草等の葉菜類などの栽培収穫においても、夏場のハウス内温度の上昇に対する抑制効果が期待でき、管理面の改善や葉焼け、病害などの減少も期待できます。また、ハウス内面の流動機能を付与した遮熱塗布型農PO(0.13mm厚)も用意いたしました。農ビ仕様の「あすかクール」とおしま線クールもあわせて宜しくお願い申し上げます。

「遮熱効果」とは

近赤外線は物体に当たって発熱する熱線であり、ハウス内では、地面・作物・作業員(人間)が熱を感じます。ハウス内の温度は、地面が熱せられ、空気が温まることで温度は上がります。その近赤外線の透過量を下げることで、熱線が抑えられハウス内の温度を下げる効果があります。

- ①人が暑く感じる
- ②作物が葉焼け等を起こす
- ③土壌が乾燥する

こんな状況をハイベールクールが緩和します!

アキレス株式会社 農業資材部